

# クワン四国

No.1180  
2018年  
7月号

## 「列状間伐」 現地検討会に 100名を 超える参加者

【詳細は2頁】



### 目次

- ・列状間伐現地検討会を実施…………… 2
- ・四国森林管理局に農林水産大臣表彰…………… 2
- ・各地のたより…………… 3
- ・研修生の声…………… 8



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

## 列状間伐現地検討会を実施

〈資源活用課〉

6月28日に高知中部森林管理署管内の谷相山国有林3林班（列状間伐推進モデル林）において、列状間伐現地検討会を開催し、県職員や森林組合、請負事業者、局署職員含め約110名が参加しました。

冒頭、野津山喜晴四国森林管理局長及び森野清繁高知中部森林管理署長より開催に当たっての挨拶がありました。

次に、吉良康資源活用課長から四国局での列状間伐の取組について説明があり、続く現地調査では、2回目の列状間伐でクロス状に間伐された



箇所を実行担当者による説明を受けながら視察しました。実際に列状間伐の作業現場を見て、林業事業者の方々と活発な意見交換も行いました。

最後に松本寛喜森林整備部長から、現場毎に林況や作業環境が異なるため、教科書通りとはならない。様々な現場を見て技術力を向上させ、列状間伐を是非進めてもらいたい」との話がありました。

また、請負事業者等の参加者アンケート調査を実施したところ、列状間伐の実施に対して前向きな意見が

8割を超える結果となり、成果のあった現地検討会となりました。

前日の27日には香川所管内でも同様の現地検討会を開催し、約60名が参加しました。

四国局においては、今後とも列状間伐の推進に取り組みとともに、素材生産の低コスト化に向けた様々な取組を国有林が率先して実施することとしています。

### 四国森林管理局に

### 農林水産大臣表彰

◇九州北部豪雨災害派遣職員

治山技術専門官 北代 典史

設計指導官 山口 誠司

保安林係 川口 慎弥

6月20日、四国森林管理局において、九州北部豪雨災害に対する農林水産大臣表彰の伝達式が行われました。

これは、昨年7月の九州北部豪雨



に際し、福岡県から林野庁に対する支援の要請を受け、林野庁において山地災害緊急展開チームが初めて派遣決定され、全国の森林管理局から技術系職員が派遣されたことによるものです。

四国森林管理局では治山課から3名の職員が派遣され、福岡県東峰村において山地災害箇所の現地調査等復旧工事実施に向けた技術的支援活動を行い、災害復旧工事等の早期実施に大きな役割を果たしました。

表彰された職員は「表彰は大変うれしく思うとともに、今後、さらなる技術向上に取り組みたい」と話しています。



写真は、右から  
目黒剛志（治山課長）、山口誠司、  
北代典史、川口慎弥

# 各地のたより



## 各地のたより 目次

- 久万高原町で「警察・消防機関」とドローンを学ぶ
- 技術開発課題に貴重な意見
- 国で初めてのCLT新庁舎
- 愛媛県植樹祭と緑の募金
- 松野西小学校で年間を通じた森林環境教育
- 西土佐小学校で『木材の特徴』についての講義と実験

## 久万高原町で「警察・消防機関」とドローンを学ぶ

〈愛媛森林管理署〉

5月21と22の両日にわたり、「ドローン講習会」と「技術向上検討会」を久万高原町で開催しました。

昨年度より、地元関係機関との連携強化を図ることを目的に、四国森林管理局の関係各課の協力のもと当署職員の受講に併せ、愛媛県森林局、各市町、林業事業者等にも参加を呼びかけ実施しています。

近年、登山（入林）者の増加に伴い遭難（行方不明）が全国的に増加傾向にあります。当署管内でも、当年度に入り、大事には至らなかったものの、中予地区及び南予地区で高齢の登山者が行方不明となり、警察・消防機関と捜索、救助対応にあたる事案が発生したところです。このよ



うな状況を踏まえ、二回目となる今回は、昨年度の参加対象者に加え、中予地区の国有林所在地を管轄する愛媛県警察本部、久万高原消防本部、伊予消防等事務組合（砥部消防署）、大洲消防本部（内子消防署）も新たに参加をいただき、総勢70名での講習会となりました。

午前には局講師による「関係法規や機体等の取り扱い」の座学を行い、午後からは、グラウンドにて、実際に操縦や映像の鮮明さを体験する「飛行実技」を行いました。

受講者からは、「導入に向け前向きに検討したい」（消防・各自治体関係者）、「導入時には講師派遣を依頼したい（警察本部）」との声が寄せられ、好評を得る講習会となりました。

今後、ドローンの各事業への活用はもとより災害・遭難時対策を確立するための「災害活動支援協定」の締結や警察・消防機関と合同の「緊急連絡・救急模擬訓練」の実施に繋げるなど地元と連携強化を進める考えであり、今回のような各機関の人たちと実際に顔を会わせた取組は有意義なものとなりました。

2日目は、森林・林業分野におけるドローン導入を進めた自治体や事業体と「ドローン技術向上検討会」と銘打ち、局・署と中予山岳流域活性化センター（久万高原町）が共催で開催しました。

本検討会では、国有林の取組報告に加え、中予山岳流域活性化センター、内子町森林組合から、ドローンを森林の管理や間伐等の森林整備

に活用するための「先導的な取組」の報告がありました。

久万高原町の林政アドバイザー（本藤幹雄氏）からは、「全国初のドローンを活用した森林資源把握について」の説明を受け、情報・意見交換を行えたことで、新たな操作技術や活用範囲の拡大に繋げるきっかけになり、「講習会」から「検討会」へと一歩、階段を進めることができたと思います。

今後、ドローンのあらゆる活用を模索し、積極的な活用を署内で取り組んで行きたいと考えています。



## 技術開発課題に貴重な意見

### 〈第一回技術開発

### 委員会を開催〉

〈森林技術・支援センター〉

6月7日、第一回技術開発委員会を四国森林管理局で開催しました。

当委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要綱に基づき、技術開発の計画・評価・方法等について意見を伺うもので、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

今回は、

1. 保育作業の省力化による森林育成技術の確立
2. エリートツリー植栽による下刈省力化試験
3. 竹を利用したシカ害対策について
4. 再造林地での効果的なシカ捕獲手法と捕獲後の影響及び捕獲効果の検証
5. 再造林地でのノウサギ食害対策について

の5課題について審議され意見・助言等を頂きました。

各委員から出された主な意見等としては、

課題1では、調査結果では、下刈、除伐の回数を減らすという観点からの低コストであり、試験地の追加を行うなど、より精度の高いものとなるよう期待する。

課題2では、造林事業の低コスト化は、民有林・国有林を問わず喫緊の課題であり、本課題に研究機関等と連携して取り組んでいることから新たな知見を期待する。

課題3では、現在開発中の生分解性フィルムと放置竹林材を使っている試験結果において、一定の成果が見受けられ、今後、シカの密度がより高い地域での試験も実施予定であることから新たな知見を期待する。

課題4では、シカの行動圏を把握・分析する等のデータ収集をはじめ、その手法等については、研究機関等から指導も仰ぐ中で取り組んでいること、さらに、調査期間を延長し継続することから新たな知見を期待する。

課題5では、

・ノウサギ誘引捕獲について、ノウサギ用のハイキューブやペット用の餌を使い、ノウサギの捕獲には、一定の成果が見受けられたことから、引き続き検証を行い、生態学の解明にもつなげてほしいなど、各委員からは貴重な意見・助言等が出されました。

当センターでは、これらの貴重な意見等を踏まえ、今後の試験設定のあり方など技術開発・普及に活かしていくこととしています。



第1回技術開発委員会

## 「国で初めてのCLT新庁舎」

〈嶺北森林管理署〉

昭和46年（1971年）に建設され、経年による老朽化が著しいことから、利用者の安全確保及び執務環境改善のため、近接する寺家・大川森林事務所も取り込み、四国地方整備局発注による建設を行っているもので、この度、着工の運びとなったため、6月1日に現庁舎において起工式を開催しました。

新庁舎は、現庁舎の正面玄関側と国道439号との間に建設するもので、国の庁舎整備として初めて本格的にCLTパネル工法を採用し、主要構造部の壁、2階床、屋根に構造用として270m程度のCLTパネルを使用することとしています。

CLT活用状況については、施設利用者以外にも分かるよう、軒と南面外壁は構造用CLTパネルをそのまま見せる「見える化」のため、仕上げ材等にガラスカーテンウォールを採用しており、見え掛かり部には当署管内の杉を使用することとしています。

起工式には、まず、四国森林管理



局長（野津山喜晴）から「CLT建築が増えれば、国産材の需要も増える。高知、嶺北からCLTを発信していきたい」続いて、発注者である四国地方整備局営繕部官庁施設管理官（松原幸男）からは、「整備局としても初の取組であり森林行政の円滑化に寄与したい」と挨拶がありました。

また、高知県林業振興・環境部長、嶺北四町村の首長、高知県森林組合連合会なども来賓として参加して頂き、地域の基幹産業である林業を牽引する当署の新たな門出に祝福の言



完成イメージ図（無断転用厳禁）

葉を頂きました。

最後に、2枚のCLTパネルの組み合わせを行い、工事の着工を記念し、参加者で記念撮影を行い、閉会しました。

新庁舎は、平成30年12月の完成予定で、今後、構造見学会などを開催し、CLT利用の普及を図っていくとともに、引き続き地域に根付いた嶺北森林管理署にしていく考えです。

## 地域をみどりいっぱい 「愛媛県植樹祭と緑の募金」

〈愛媛森林管理署〉

5月12日、愛媛県植樹祭が砥部町陶街道ゆとり公園であり、地元の小中学生や自治体関係者・愛媛森林管理署職員ら約400人が緑の保全と普及に向けた意識を高めました。式典後、コブシやヒラドツツジを植栽しました。

また、地元の緑の少年団・少年隊が「郷土の緑に感謝し、未来につないでいく」と誓いました。

さらに5月13日、森林整備や地域の緑化活動に活用する「緑の募金」の街頭活動が松山市中心部の大街道商店街と伊予鉄道松山市駅前であり、ボーイスカウトや関係者・愛媛森林管理署職員ら約100人が「緑の募金」の街頭活動を行いました。

愛媛県植樹祭と緑の募金の双方とも例年取り組んでいる息の長いイベントで、初夏の行事として愛媛県内に定着しており、愛媛森林管理署としても、愛媛県全体がみどりいっぱいになることを楽しみに、今後も取り組んでいきます。



ヒラドツツジを記念植樹



緑がいっぱいあふれるように募金をお願い

## 松野西小学校で年間を通した森林環境教育

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

愛媛県松野町立松野西小学校では、平成19年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度4〜6回を目処に森林環境教育を実施しています。この取組の一貫として今年度も4年生（児童19名）に対する森林環境教育に関する支援要請を受け、実行中です。

その第1回目として、5月25日に「校庭の樹木学習」を実施しました。

先ず教室で校庭の樹木を観察するポイント等について簡単に説明し、校庭に出て春の木漏れ日のなか、クスノキやモミなどの樹木の幹や枝葉に触れてもらいました。次に、木の肌の感触や葉の匂いを嗅ぐなどの体感を通して様々な樹木の名前や特徴が理解出来るよう説明しました。他にも、木漏れ日キャッチ（画用紙を使って、植物と光と影がつくる一度限りのアートを楽しむゲーム）で楽しみました。

第2回目として、6月12日に木工クラブ学習に取り組みました。

最初に、材料の木材は、古くから私たち日本人の生活になくてはならない存在で、木材には優れた性質があり暮らしを快適にしてくれる素晴らしいものだということを伝えました。しかし、使いづらい点も持っているので上手な工夫をして色々な材料や原料に木材を使っていることを説明しました。

その後、児童達は木材を利用した昆虫の壁掛け製作に挑戦しました。

コルクの木枠、カプトムシヤクワガタムシの各パーツ、動眼（動く目玉）、小枝等の大きさ形を自由に選びます。それを、接着剤でヒノキの板に工夫しながら貼り付けることで作品を完成させました。

終わりに児童から、「これからの森林学習がとても楽しみです」「木漏れ日キャッチもめっちゃ楽しかった」「これからのいろいろな森林学習を通して、自然のこと、森林のことをもっと知りたいです。とても楽しみにしています」等の感想がありました。

第3回目は、滑床での樹木学習を予定しています。

これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解を深めてもらいたいと思います。



「校庭の樹木学習の様子」



## 西土佐小学校で『木材の特徴』についての講義と実験

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十市立西土佐小学校から、『木材の特徴』についての講義をしてもらいたい」「今年の四万十川ウルトラマラソンの際に児童が板に絵を描いて勝手にプレゼントをしたい」との要望がありました。

児童に木材の良さを知ってもらおう絶好の機会と捉え、スギの板などを準備し、6月6日、6年生17名を対象にした「木材の特徴」についての講義やスギ板を使ってのプレゼントの作成を行いました。

講義では、木材は古くから私たちが日本人の生活になくてはならない存在で、木材には優れた性質があり暮らしを快適にしてくれる素晴らしいものですが、使いづらい点も持っているので木材を上手に工夫をして色々な材料や原料に木材を使っていることについて説明しました。

その後、日本で一番軽い木（桐）と一番重たい木（イヌノキ）、世界で一番軽い木（バルサ）と一番重たい木（リグナムバイタ）について説明

し、世界で一番軽い木と重たい木の2つの重さを水槽や上皿天秤ばかりを使って比較する実験等を児童に行わせました。天秤ばかりの実験では、1センチ角のリグナムバイタ1個を右側の皿にのせて、1センチ角のバルサを左側の皿に置くと同個で重さが釣り合うかと質問したところ、答えはそれぞれ違う個数でした。バルサを皿に1個1個と置いていき皿が動き、めもりが自分の予想と外れると歓声が上がっていました。

最後に、児童の代表から、「実験が楽しかった。今まで知らなかったいろいろな木材のことも知ることが出来ました」と感想がありました。

当所としても地元小学校の要請に応えることができ大変有意義であったと考えています。

これからも児童には、木材に親しみ、利用してもらいたいと思います。



「水槽や上皿天秤ばかり使用した、木の重さの比較実験の様子」





## 「注目すべきは反対意見！」

嶺北森林管理署 業務グループ

森林整備官 吉本 直人

6月7日と8日にかけて、香川県高松市にて開催された「第44回四国地区係長研修」に参加してきました。当研修は、職務の遂行に必要な幅広い知識及び行政的視野並びに管理能力を修得させ、地方機関における中堅幹部となるべき職員を育成し、併せて政府職員としての一体感を培うことを目的として開催されているもので、法務局、検察庁、財務局職員等をはじめ、他府省庁職員47名が参加して行われました。

初日は、部下の成長をサポートする対話術である「コーチング」や、メンバーの意見を引き出す会議術である「ファシリテーション」の講座を学びました。



コーチング講座では、部下に対して従来から行われている「指示・命令」ではなく、「問いかけ」を使うことで、指示や命令無しでは動けない「依存型人材」から、自ら考えて動く「自立型人材」へ育成するためのサポート術を学びました。「部下に仕事を教えるよりも、自分で仕事をしたほうが楽だし早い」と考える方も多いかと思いますが、この考え方は一番やっではないけない御法度であり、公務員として、個の能力と組織のパフォーマンスを最大化し、質の高いサービスを提供し続けていくためには、一人ひとりの成長なくしては成し得ないことだと教わりました。

ファシリテーション講座では、会議・ミーティング等の話し合いの場を活性化し、様々な意見を引き出し、まとめる方法の基本的なスキルを教わりました。仕事が忙しいとき等に会議があると、仕事が進まないと思う方もいらっしゃると思いますが、実際には、きちんと会議の中で話し合いを行い、メンバー同士の合意形成が出来れば、会議に費やした時間以上に早く仕事が終わると言われています。また、話し合いの中で全員が納得する着地点を模索するとき、注目すべきは反対意見です。反対意見は「〇〇が満たされれば賛成できる」という妥協ポイントが含まれていたり、危険性を予知してくれる意見もあります。議論に幅を持たせたり、異なった切り口を持たせられることもあり、反対意見は消すべきものではなく、大切に扱うべきものだとすることも教わりました。

2日目の政策・課題研究発表によるグループ討議では、「国有林材の安定供給システム販売」をメインテーマに発表するとともに、「ゆう活について」「働き方改革への対応」「訪日外国人に対する税関検査のあり方に

ついて」「無戸籍者の解消について」について討議メンバーとして参加しました。発表者側としては、会議運営力の向上が図れたことや、グループメンバーの発想や提案に接し、自業務を見つめ直す、課題対応のヒントを得る契機とすることができました。討議メンバーとしては、他機関の業務等に対する知識と理解を深め視野を広げることができたと感じています。

2日間という短い時間の中で、これまで接したことの無い他府省庁の皆さんと一緒に学び、討議出来たことは、非常に貴重な経験をさせていただいたと感じています。

自分たちの職場だけではなく、他府省庁に対する理解や繋がりも大事だと感じましたので、今後もこういう機会があれば四国森林管理局からも積極的に参加していただきたいと思います。

